



旭川市立神居東小学校 学校だより



# ぬくもり

旭川市神居1条17丁目 TEL 62-2932 令和4年1月31日発行 第10号

次の学年につながる学期とするために

校長 澤田 匡史

新しい年を迎え、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。今年も子どもたちが心豊かに、健やかに成長できますよう、職員一同、全力で教育活動に取り組みたいと決意しております。今年も、ご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、3学期が始まり2週間ほど経ちました。校内のあちこちから元気に学んだり遊んだりしている子どもたちの明るい声が響いています。久しぶりに登校した子どもたちは穏やかな表情で、どの子もよい冬休みが過ごせたようで安堵いたしました。

しかし、新型コロナウイルス対策のため、北海道全域がまん延防止等重点措置の対象区域となりました。本校でも、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」(文科省)や教育委員会の指示を基に、子どもたちはもちろん、職員の感染防止対策を今まで以上に強化してまいります。保護者の皆様には、お子様の「朝の健康チェック」等でご面倒をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。



3学期の始業式に校内放送で子どもたちに話した概要について掲載します。当日は、キーワードをテレビ画面に映しながら話しました。

皆さんはこれまで、今までの自分を越えるために、いろいろなことを続けてきました。これからも、小さなことでも構いません、ぜひ続けてください。例えば、「進んで挨拶すること」や「進んで発表すること」、「家庭学習を続けること」、「先生や友達の話を最後まできちんと聞くこと」、「友達に優しくすること」、「友達と協力すること」などです。まだ他に続けてきたことがたくさんあると思います。～中略～

今日は、皆さんが友達にもっと優しくなり、友達ともっと仲良くなれるといいなと思い、皆さんがいつも使っている言葉について話します。ある授業で子どもたちが次のように言っていました。「言葉は魔法。自分の気持ちを言葉にするだけで自分の気持ちが相手に伝わる」、「言葉は心を映す鏡」、これは、よい心ときは相手に伝える言葉がきれい美しくなるということです。逆に、悪い心ときは、言葉も乱暴で汚くなるということを表しているのだと思います。また、「言葉は、口から出たら元には戻せない。言葉はぱっと出てしまう。だから、後から後悔する」、これは誰かに乱暴で汚い言葉を言ってしまっても、もうその言葉はなかったことにはできないということを行っているのだと思います。校長先生は「言葉には目に見えない力がある」と思っています。

言葉は、私たちに欠かせないものです。なぜなら、人と人をつなぐ大事な道具だからです。この言葉をどう使うかは、私たち一人一人が考えなければなりません。皆さんは、自分が言われてうれしい言葉がありますよね。前にも話したことがあります。例えば、「ありがとう」、「ごめんね」、「大丈夫?」、「すごいね」、「頑張ったね」、「一緒にやろう」などです。今の言葉を互いに言い合えたら、友達ともっと仲良くなれると思いませんか。

人は、考え方も感じ方も表し方も、全て違います。ですから、友達と仲良くなるためには、相手のことをよく知らなければなりません。その一番の近道は、相手の言葉をよく聞くことです。最後までよく聞いて、友達が考えていることを分かろうとすることです。そうすると友達のよさが分かってきます。友達のよさが見つければその人との距離はぐんぐん近づくでしょう。友達との「心の距離」は離れてはいけません。友達との「心の距離」は、近ければ近いほどよいと思います。～中略～

言葉には大きな力があります。短い言葉であっても、ときには人の心を幸せにしたり、相手を気持ちよくしたりします。反対に、何となく言った言葉が、人を傷つけたり、相手の気持ちを暗くしたりすることがあります。皆さんには、人の心を幸せにする言葉を心を込めて話せる人になってほしいと思います。

人の心を幸せにする言葉が、学校中にあふれることを校長先生は願っています。

【裏面に続く】

